



第4回 (仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設基本計画検討協議会 議事概要

1. 開会

2. 話題

(1) 報告

1) 前回協議会の結果

(事務局説明)

※内容省略

2) 道の駅アイデア募集コンテストについて

(青年会議所説明)

- 道の駅に関する事というよりも、町にこれから色々な問題が出てくる中で子ども達にもこの町の事に関心を持っていただくということをコンセプトとして、遠軽町内に在学する 2,076 名にアンケートを配布して、227 名（小学生 155 名、中学生 65 名、高校生 7 名）から回答があった。
- 道の駅の中でどのような店、イベントがあったらよいか、夏のロックバレーのスキー場の利用についてどういった物があればよいか、および遠軽の自慢について聞いている。
- 道の駅の店という子ども達は飲食の方が興味が有り、中でも甘い物系ができればよいという意見が多かった。イベントは、お祭りのようなものが季節ごとだったり、単発単発でやっていただいたら、その関心を持って足を運んでいただくような感じである。
- 夏のロックバレースキー場の活用は、スキー場の傾斜を利用したアトラクションに興味を示されている。
- 遠軽町の自慢は、瞰望岩とコスモス園というのが圧倒的に多い。そして人柄。優しいとか平和という意見もあった。
- 青年会議所として、コンテスト表彰を 11 月 21 日にロックバレースキー場で行う予定である。

3) 道の駅視察について

10/6(火)・7(水) 道内の先進道の駅の視察

訪問箇所：赤井川、ニセコ、黒松内、伊達、千歳、恵庭、深川、東川

参加者：委員有志、事務局

(商工会、観光協会、物産協会、商工会議所説明)

- 全体に統一しての物販としての売上状況は、1 位は農産物、2 位に手作りパン、そして地元の特産品が共通していた。
- 施設運営は、商工会、株式会社の観光協会、第三セクターの公社、株式会社の公社、民間という形どこの地域も法人格を持った団体が運営しており、ほとんどが指定管理者として運営している。
- トイレは広く清潔感のあるトイレにしないといけないと感じている。
- 伊達についてはまず野菜は少量多品種でやっていて、果物は壮瞥・豊浦のものも入れている。特産品は、白い恋人やロイズなどの物は置かず近隣の特産品やお菓子などを置いている。



- 遠軽では、帰る方が買い忘れても遠軽の道の駅に行けば買えるように、湧別町、佐呂間町、紋別、滝上などオールオホーツクとして扱うことが必要だと感じている。
- 運営形態をどうするのか、また、詳細についてはいくつかの専門の分科会を設け、部門ごとにテーマを絞り込んで話し合わなくてはならないと感じた。
- EVの急速充電器が確認できたのは花ロードえにわとサーモンパーク千歳に1台ずつだけだった。
- 道の駅とコンビニが併設されている千歳(ローソン)、深川(セブンイレブン)があったが、共有性あるいは連動性、相乗効果、弊害などについて今後も調べてみる必要があると感じている。
- ベーカリーについてもその必要性や効果について具体的に調べてみる必要があると感じている。
- タッチパネル式の観光情報の発信機能があるが使い勝手があまり良くないような話しをしていた。充実していった方が良く思っている。
- パンとピザは複数の道の駅で見られた。
- 伊達市は、土壌の検査を天使大学にお願いしながら輪作を行っており、(市内で生産量を確保できた結果、)4億8千万の野菜の売上があった。
- 視察した道の駅のほとんどが国道と直接繋がっていて比較的条件が良いものであった。
- 訪問した時が天候が良くなかったため、トイレは立派だが泥で汚れてたりする箇所が結構目立つ所もあった。清掃の徹底について考えてみる必要があると思っている。
- バイクのツーリングに対応した、バイク専用の駐車帯を設けてる所があった。
- 農畜産物の栽培、加工、お土産菓子類などの開発にどれ位の方が協力を頂けるのか等々について検討していかなければならないと考えている。
- 農産物の販売でニセコでは、規格品以外の物を主に持ってきたり販売しながら、1千万以上売っている農家が10軒以上いる。
- 黒松内は売店も含めて売上が約1億2千万位あるが、パンとピザで約60%超。金額で7千万位になっている。特別なメニューを開発する必要はないが、作る職人さんを発掘していく必要がある。
- 千歳は生鮮野菜を地元の方が購入している。住民が利用する道の駅である必要があると思う。

→ 写真だけではなく、この意見や施設の概要をまとめて資料化しておくこと今後の役に立つと思われる。

(2) 議題

1) 道の駅および周辺施設のコンセプト案について

(事務局説明)

- 前回協議会でのコンセプト案について特に変更を求める意見はなかったため、ほぼ前回資料から変えていない。再度細かいところなどを再確認して欲しい。

コンセプト：ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅

考え方1：スキー場併設ならではの様々な体験や、オホーツクの恵みを活かした賑わいづくり。

考え方2：食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくり。

考え方3：旅に楽しさと安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

- 今回は、それぞれの考え方に対してどのような検討を進めていく必要があるかというところを追記している。



- 考え方1について：アクティビティの具体化、景観・風景づくり、休憩スペース、オホーツクの玄関口としての対象とする範囲などの検討が必要。
- 考え方2について：レストラン・フードコート・軽食全てを提供するのか、野菜販売の運営方法、提供するオホーツク物産の範囲、種類などの検討が必要。
- 考え方3について：情報提供をする範囲と他の道の駅との連携方法や、防災拠点化の仕方などの検討が必要。
- 運営組織として、他の市町村での検討で公益的な機関を候補として示していた例もあったが、そのような形で例えば「既存の組織である観光協会、商工会議所等が」などに入れるのはどうだろうか。
- スキー場の管理者との連携や施設管理のあり方についても検討する必要がある。

(座長)

- 協議会はコンセプトを決めることが大きなミッションで、これをうけて具体的な建築や土木の話が出てくる。協議会としては何をどこに配置させるとか具体的な面積まではまともないが、実際に作り込みをしやすいように、今後どういう点を検討をするとよいか、というところまでを協議会として作っていくことになる。

(意見交換)

- コンセプトとして眺望は押さえておきたい。
- コンセプトはこの中でやるということで良い。
- 運営組織の候補案としては、商工会議所も観光協会もスキー場関係者も外すことはできないからこの形で良い。
→ コンセプトおよび今後必要な検討についても盛り込んだものとするを委員了承。

2) 道の駅本体に導入する施設・機能について

(事務局説明)

- 現在のロッジからリフト乗り場までは3mほど昇る形になっているが、新しい施設でも同程度はス高低差が生じる予定であり、建物の構成でこの高低差を吸収することを想定している。
- ICから入ってきてすぐの所は駐車場(100台程度)および臨時駐車場にもなるスペース(100台程度可能)を用意し、建物を挟んでリフト乗り場側に倉庫などを配置するように考えている。
- 今後の検討を続ける目安となるように、協議会として事業全体の規模・構成イメージ案を示したい。
- 今までの協議会でできた主要な機能とともに、建物の機能(部屋)ごとに検討ポイントを整理した。
- 例えば、農産物直売所は冬期に販売をしないのであれば冬期は子どもたちのレストスペースとすることもできるのではないか。
- 1階が駐車場に面して2階がゲレンデに面している構成として、1階は道の駅の機能中心、2階はスキーロッジ機能中心に配置したい。
- 道の駅の機能としては1000㎡程度あると比較的大きめの道の駅の規模で、現在のスキーロッジが500㎡弱あることから、合計1500㎡程度が最大規模の目安となると思われる。
- 直売所とレストルームを別に作る案と兼用する案の2つのパターンについて、面積と配置の例を参考資料として示している。



(意見交換)

- スキー場の駐車場は1月の週末やイベント時には混んでいるから、道の駅になると駐車場が足りるか心配がある。
- 現在の駐車場は実質140~150台程度が駐車可能で、大会時以外は間に合っている。大会時は不足することもあるかもしれない。
 - 駐車場と臨時駐車場以外に、大会時には、通常管理者が利用するスペースに大会関係者の車両を置くことなどで対応したい。
- 図だとしてどう建物が配置されるかイメージがわからないので模型などで見てみたい。
 - 次回模型をお見せできるようにする。

3) 考える会について

(事務局説明)

- 旭川紋別自動車道の(仮称)遠軽豊里 IC は平成30年代の早い時期の供用開始と言われていることから、道の駅の開設は、ICの最短供用を想定して平成30年度末を目指したい。
- そのためには平成28年度中には実施設計を完了させる必要がある。この設計に反映させるための具体的な検討(機能、間取り等)を早急に進める必要がある。また、施設運営、物販や食・情報の提供、イベントの実施などについても決めていく必要がある。それらの話し合いの場を「考える会」として考えている。
- 「考える会」は運営に携わるであろう方々などで、専門部会に分けて具体的に検討を進めることを考えている。協議会に出席されている委員の組織の方々にも是非参加していただきたい。
- 「考える会」は可能であれば次回の検討協議会後のあたりに発足させたい。

(意見交換)

- 「考える会」で詳細を検討する前に誰が主体になるかを決めないと、後から業者が入ってきたらやりづらいのではないかと。
- 観光協会やスキー場、商工会議所は必ず関わってくるところだし、どうやって運営するか、募集もどうやるかなども含めてこれから決めていくということ。
- 遠軽が5年10年20年後にどうなるかっていうことを考えつつ、人口減少する中、遠軽で人をとめるためには、ここにいる皆で背負っていくという思いでやっていかないと絶対成功しない。
- 若い方を含めて今度が「私が」という主体を明確にして議論していく必要がある。
- 意識を持ってしっかりやっていきたい。
- 役場としてはどう考えているか。
 - 以前に町民ワークショップをした時にもご意見を色々いただいたが、運営体制は、成功するためには町民が主体となって考えていった方がよいという他の道の駅の管理者からの感想もあり、そのような方向で進んでいただければ一番よいのではないかと考えている。
 - 色々な形でサポートは出てくるのではないかと。
 - その辺は出てくると思う。
 - メンバーの候補については検討して次回示す予定である。この協議会に参加している方々は



かなりの部分を入れていただくことになると思われる。

- 立ち上げる時には一本化して納得いってもらう必要がある。
- 覚悟を決めて考える会をする必要がある。
 - 具体的な話になっていくため、具体的な分野別の部会で検討してそのままやっていくようなことになるのではないか。
- 物産を扱っている現役世代は、事務局的な動きにはなかなか手を掛けられないかもしれない。
- 事務局的な対応については、団体も少人数でやっていたりするため、人を増やしたり、別の人にやってもらうなどをしないと難しい。
 - 次回は模型などでイメージを膨らませながら具体的に道の駅の「考える会」で責任と行動範囲等を含めて組織を考えていくためにどうしたらいいかというのが次回考えることになる。

4) その他 (情報提供)

(網走開発建設部)

- 遠軽町は北海道発の1市町村に3駅となる町であり、3駅で差別化して相乗効果を狙えるような形で持っていけるといいのではないかと思う。
- 防災拠点の話がでていますが、オホーツク管内では「おんねゆ温泉」、「メルヘンの丘めまんべつ」、「おうむ」の3箇所が防災拠点の道の駅となっている。そういった情報提供も今後させていただきたい。

3. 閉会